

わたしたち地域の経営対策

グレープフルーツの 自由化と今後の夏柑経営

愛媛県三崎町農業協同組合青果部
金 沢 熊 一

日本農業にとっては、海外の農産物の自由化圧力の増大と米の生産調整等、内外の諸情勢は非常にきびしくなっている。

特に当町のように夏柑の依存度が高い産地では、グレープフルーツ自由化の影響は深刻である。当農協では、昭和45年度に樹立した三崎町果樹振興計画を基礎に、特に今年度は夏柑の品種更新と品質向上による、価格の維持増進と併せて省力技術体系確立のために、諸事業の導入等を基本に、指導事業を次の5点を重点に計画した。

1. 夏柑の転換指導および近代化の推進
2. 生産技術の開発およびモデル園の増成
3. 流通と直結した技術指導の徹底
4. 国および県の指導に基づき各種制度の導入
5. 共同化の再検討

夏柑の品種更新

これ等の対応策として、夏柑の改植並びに高接により、品種の更新を行って所得の増大を計ることが急務である。

更新する品種系統については、三崎町の立地条件、気象条件および今後の消費動向を勘案し、三崎町果樹振興計画に基づき別表の通り決定した。

品種別構成の考え方

1. 主力部門
夏 柑

現在の三崎町農業の実態から、単年度に無くすことは困難なので、今後5年間は、主力部門とし

三崎町品種別栽植面積 (昭和45年度)

		夏 柑	甘夏柑	みかん	伊予柑	八 朔	その他	計
現 況 計 画	栽植面積	400	230	30	40	20	30	750
	割 合							
	栽植面積	150	400	50	100	50	50	800
	割 合							

て生産管理の根本的改革を行い、品質の統一と流通の合理化により消費の増大につとめ、同時に計画的・積極的に他品種への転換を推進する。

2. 開発部門

甘 夏 柑

省力栽培、生産管理に徹底し一層品質の統一を計り、将来甘夏柑の特徴ある主産地を形成する。

3. 戦略部門

主力部門、開発部門の計画実施に基づき、危険分散および労働配分を考慮して、適地調査を徹底的に行い、積極的に生産計画の達成を計る。

夏柑更新計画

品 種	年度 面積 方法		46年		47年		48年		計
	高接	改植	高接	改植	高接	改植	高接	改植	
甘 夏 柑	40	20	20	20	10	20			130
伊 予 柑		20		20		20			60
八 朔		10		10		10			30
ネーブル		10		10		10			30
計	40	60	20	60	10	60			250

改植更新

三崎町の夏柑の歴史は古く、明治12年頃から栽植されており、90年前後の樹令の木もある。まず改植する園は経済的樹令を適した園、不適地の夏柑園等を先に行う。改植にあたり、最も考えられる課題としては、如何にして未収益期間を短縮するかにある。

一時に全園を伐採して、小苗の定植を行ったのでは、嫌地現象、その他により、樹の生育が非常に悪く、したがって結果期に入るのもおくれる。

改植を計画した園では、風当たりの弱い、耕土の深い個所を25%~30%伐採し、有機質および微量要素を補給して苗木の植付けを行い、2~3年間苗圃として管理し、結果期に入る前年残った樹を伐採して定植する。

接木更新

未収益期間を縮小するために最も経済的効果の高い方法は、接木更新である。接いでから3年目頃から収量が見られる。ただし樹令の古い樹では活着率が悪く、また以後の生育も劣り良くない。故に接木更新は20年生以下の園にのみ行う。

品質の統一的向上施策

数年前まで果樹栽培の焦点は、如何にして毎年安定して収量を多くあげるかにおかれてきた。整

枝剪定や摘果施肥, その他の肥培管理等総ての作業は, 反当収量を上げるための作業管理がなされてきた。その結果, 労働力の減少も加わり, 極端に品質が低下してきた。近年の価格の格付けは, 量より質と移り, 特に味の良否が価格を決定する要因となってきた。特に今年産のみかんの販売状況を見ると, 産地間の価格差が甚だしく大きい。

こうした消費面の変化によって, 産地でも, 栽培面の根本的な改革が必要とされている。

産地の考え方は安定多収でなく, 消費者の希望を満たす果実を生産し供給することが, 価格を安定し, 特産地としての地位を持続できる。

1. 整枝剪定技術の改善

現在までの整枝剪定は, いかにして単位面積当たり収量を増大するかにあった。そのため樹は喬木となり, 採取労力の不足からくる取扱いの粗雑化, それに伴う腐敗果の発生, 薬剤散布の不徹底による病害虫の発生, 品質(味のバラツキ)の不揃いによる価格の低落, 一方摘果の不徹底, 作業労力の増加等, 悪循環を招く結果になっている。

これからの整枝剪定は立地条件, 栽植距離等を考慮に入れ, 品質の統一的向上, 作業の省力化と合せて, 収量の安定を基本に, 樹型・樹高の目標に現地指導を強化している。

2. 施肥体系の改善

多肥多収の観念がまだ抜けきれず, 多肥する農家が多い。多肥により樹体の劣弱, 品質の低下等の悪影響が出ている。本年度は土壌分析を全面的に実施し, 土壌改良と根造りに重点を置き, 品種系統および樹令, 樹勢, 結果量その他細部にわたり考慮して, 施肥設計を樹立して品質の統一的向上と生産費の低減を目標に, 改善実施している。

3. 共同防除の推進

労働力の不足により, 病害虫の適期防除が困難な時になっている。今年度から共同防除組織を改革し, 適期適剤散布により病害虫の棲息密度を低下させ, 散布回数を減らし, 生産費の低減と品質の統一的向上を目標に推進している。

なお今後スプリンクラーの多目的利用を, 試験的にモデル園を設置するため, 先進地視察を行う計画で取り組んでいる。

4. 果実の貯蔵出荷

わが国の果物の生産量は年々いちじるしく増えている。この傾向は今後もまだ続くものと予想される。生産量が多くなれば, 価格の点で心配しなければならない。しかし, 年々増加する果物を減らすことはできない。そこで考えられることは,

貯蔵による出荷期間の延長と, 出荷の調整により集荷場, 撰果場の繁雑をなくし, 流通経費の節減と価格の安定を計るとともに, 品質の低下(おそくなってからの浮皮, 水腐れ, 果皮の淡色)を防ぐと同時に, 貯蔵中の品質(糖度, 酸度の割合)向上を目的に, 今年度から甘夏柑の予想収量の20%を各個人に貯蔵させ, 6月以降に出荷販売する。

省力技術体系の確立

農業にとって一大危機に遭遇しているといわれる今日, 農作業道の設置と農地の集団化が最も急務である。現在, 第二次農業構造改善事業および夏柑等再開発特別事業が認可になり, これ等の事業と併せて, 町ならびに土地改良区と密接な連繋のもとに, 各地域に即した基盤整備事業に積極的に参加して, 援助指導している。

1. 農作業道, モノレールの設置推進

経営規模の拡大と労働力の老令婦女子化の点を考慮に入れ, 幹線農道の設置に伴い, 支線や園内道の設置と, 農作業道の設置不能な地域ではモノレール等の架設を行っている。これらの資金は, 補助事業の導入と低利資金の導入を行っている。

2. 果樹園の集団化

第二次農業構造改善事業の主目的である, 園地の集団化については, 農民の土地に対する愛着心から農地の交換分合は, 至難な問題であったが, 現在の農業状況を説明し, 耕地の分散は生産性を大きく低下せしめることなどを認識させ, 交換分合と集団化を積極的に推進している。

< 目 次 >

※グレープフルーツの自由化と 今後の夏柑経営……………(2)	愛媛県三崎町農業協同組合 金 沢 熊 一
※甘しょ栽培と“DD”入り肥料……………(4)	鹿児島県農業試験場 宇田川 義 夫
※茶園の施肥 NH ₄ -NとNO ₃ -Nの消長……………(6)	静岡県茶業試験場 向 笠 芳 郎
※トマトの栽培と緩効性肥料の持続性……………(8)	奈良県農業試験場 水 田 昌 宏
※茨城岩井地方のトンネル・トマト栽培……………(10)	茨城県境地区農業改良普及所岩井支所長 稲 葉 昭 二
<解説> 日本なしの生産費と収益性……………(12)	
※鳴門大根の名声のかけに 苦土・F T E入り磷硝安加里604の肥効……………(13)	